

萬鉄五郎記念美術館

東和エリア
美術ニュース

no.27

2016.

12月号

KONOMA

木の間通信

光の詩人 内村 皓一 展 ～白と黒の深淵～

2016年12月3日(土) ～ 2017年2月19日(日)

●会場：萬鉄五郎記念美術館



1.

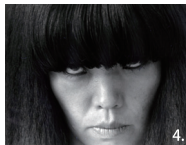
内村皓一（うちむらこういち 1914-1993）は、昭和15年徴用により中国奉天市に赴任。終戦までに撮りためた3,000枚の写真は、生々しい市井の人々の姿をとらえた人物像や、戦火のなかでも美しい奉天の風景でした。戦後は花巻で家業の印刷業を営むかわら、数々の国際サロン展に出品。その入選作は2,000点を超えました。本展では、内村の奉天時代の作品50点に、戦後サロンを中心に発表した女性像や「貌」シリーズをあわせ、初の大規模な回顧展として内村写真の全貌を辿ります。



2.



3.



4.

●休館日 月曜日（月曜が祝日の場合その翌日）
年末年始（12/29-1/3）

●開館時間 8:30 ～ 17:00（入館は16:30まで）

●入館料 一般400円、高校・学生250円、
小・中学生150円
（20名以上団体各50円引き）

1.《平和の鐘》1941-44年 2.《観想》1941-44年
3.《題名不詳（女性像）》制作年不明 4.《黙》1957年頃
1,2,4.花巻市立花巻図書館所蔵、3.岩手県立美術館所蔵

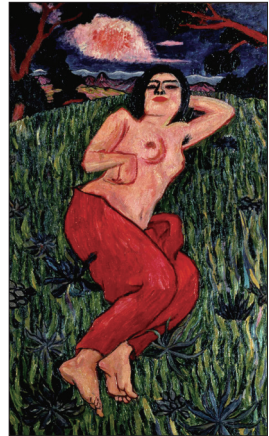
没後90年 萬鐵五郎展

よろずてつごろう

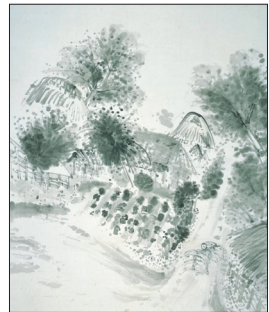
萬鐵五郎（1885-1927）は、個性派と呼ばれる芸術家を多数輩出した大正時代において、ひときわ特異な才能を輝かせた画家として知られます。

本展は没後90年を記念して開催する展覧会で、大規模な回顧展としては約20年ぶりの開催となります。1997年の回顧展以降、素描やスケッチ群、挿絵や装丁、ガラス乾板など油彩画の周辺作品や関連資料の実証研究が進展した一方で、萬が活躍した時代のジャンル横断的な展覧会もたびたび開かれるようになり、萬の制作活動はより多角的な側面から検証されつつあります。

本展は、油彩画の代表作の展示に加え、制作プロセスを示す周辺作品や資料など、近年の様々な研究成果を併せて紹介することで、萬鐵五郎が目指した表現の本質に改めて迫ろうとするものです。また、従来あまり注目されてこなかった水墨画制作にも焦点を当て、萬鐵五郎記念美術館では100点の水墨作品を中心に展示します。



《裸体美人》 1912年 油彩・画布
東京国立近代美術館所蔵



《秋景農夫図》 1922年頃 紙本墨画
萬鐵五郎記念美術館所蔵

【会期・会場】

2017年

4月15日(土)～6月18日(日)

岩手県立美術館・萬鐵五郎記念美術館 〈2館同時開催〉

岩手県立美術館では油彩、萬鐵五郎記念美術館は水墨を中心に展示予定。

7月1日(土)～9月3日(日) 神奈川県立近代美術館 葉山

9月16日(土)～11月19日(日) 新潟県立近代美術館

萬鐵五郎記念美術館 年末年始の休館について

年末年始は下記の期間お休みします。新年は1月4日(水)より開館いたします。

休館期間：12月29日(木)～1月3日(火)

喫茶「八丁土蔵」

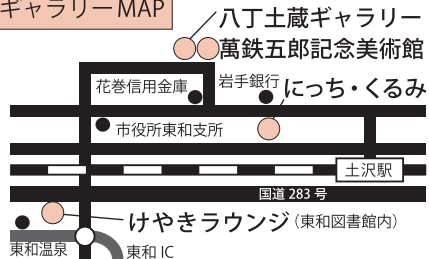


萬鐵五郎の自家「八丁」にあった土蔵を移築復元し、ギャラリーと喫茶スペースとして活用しています。自慢のオリジナルコーヒー「蔵」「八丁」を、ぜひ一度ご賞味ください。 営業時間：10:00～16:00 (lo.15:30)

美術の街「土沢」 ギャラリー情報

萬鉄五郎記念美術館とあわせて、「美術の街」土沢めぐりをしてみてはいかがでしょうか。

ギャラリーMAP



萬鉄五郎記念美術館

八丁土蔵 ギャラリー

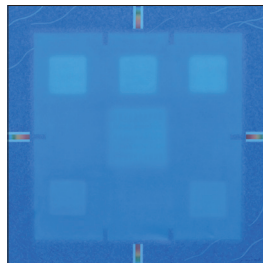
花巻市東和町土沢 5-135 萬鉄五郎記念美術館内 9:00-16:00
月曜休（祝日の場合その翌日）、
12/29-1/3 休み 入場無料

iwate コンテンポラリーアート vol.5

宮本義満展 《窓》

2016年 2017年
12/3 (土) ~ 2/19 (日)

盛岡市在住。《窓》をテーマに描く
心象風景。



Gallery Space けやきラウンジ

花巻市東和町安俵6-90 東和図書館内 tel.0198-42-3205
10:30~18:00（最終日は16:00まで）入場無料

けやきの会2016特別企画 第15回

けやきチャリティ小品展

2016年
12/4 (日)
~ 12/26 (月)

歳末恒例の温まる小
品を廉価で提供。



コレクション展

2017年
1/5 (木) ~ 1/31 (火)

K氏のコレクション作品。
版画・水彩画・ドローイ
ングなど。小品ながら密
度の濃い作品たち。



雑貨とギャラリー **にっち** tel.080-4516-4643

花巻市東和町土沢8-115こっぼら土澤

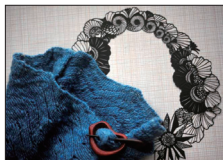
土沢カフェ **くるみ** tel.080-3334-3003

10:00~17:00 火曜定休 入場無料

羊いっぱい展

2017年
1/25 (水) ~ 2/6 (月)

「羊」をキーワードに
切り絵、木工、ウール
作家の作品に加え、ホ
ームスパマフラーや
羊かるたの作家も参加。



井上洋介作品展

2016年 2017年
11/2 (水) ~ 1/30 (月)

『くまの子ウーフ』の画家、
井上洋介の版画、水彩な
どの原画展。少年時代の戦争
体験が作品の原点だった。



女神像

前回、ギリシャの「人間主義」芸術の原点が男性アスリートの裸体像であることを書いたが、そもそも男が一糸まどわぬ姿で競技したのが古代オリンピックであった。ならば女性像はどうだったか。

長年彫刻は男性裸体像で、女性は着衣像に固執していた。ギリシャ彫刻でアルカイック期(前700〜480)から人体表現が始り、微笑をたたえた青年像(クローロス)が全裸で、乙女像(コレ)が着衣像であった。

その後300年ほど女性裸体像がない時代が続く、クラシック期(前480〜323)になってようやく前350年頃、プラクシテレスによって裸体美人のヴィーナス像が生まれた。「美と愛と豊穡の女神」をギリシャで「アフロディテ」、古代ローマでは「ウエヌス」(Venus)と言い、その英語読みが「ヴィーナス」である。

ギリシャ彫刻の歴史で、プラクシテレスの《クニドスのアフロディテ》が神殿に奉納された最初の全身ヌード像である。この像は女神が沐浴しようとしている場面、人体の完全な写実、感情を有している顔、惚れ惚れするような女性の裸は高い次元の官能性を秘めている。『プラクシテレスの香気高き肉感ほむしろ(人間であることの豊かさ)を感じさせる』(高田博厚)。小アジア(トルコ)のクニドス神殿の緑の木なかで白く輝いていたという。

この像は古代ローマで特に人気が高く、50体ほどのコピーが作られた。原作が失われてしまったがコピー作品があることで、その素晴らしさが堪能できる。ルネサンス期のポッティチェリ《ヴィーナスの誕生》、印象派ルノワールの初期の裸婦像など多くの美術家に靈感を与えている。

禁欲的なキリスト教が支配した中世の時代は、当然のことながらヴィーナス像はなく、イタリアルネサンスになって豊かな裸身像が復活した。なかでも特異なヴィーナスは、北方ルネサンスのクラ

ナハが描いた《ヴィーナス》で、非常に細身であり、小悪魔的エロスを秘めている。

反エロ的な萬鉄五郎の《裸体美人》(美校卒業制作)は、通常の官能的な女性美を描いたものではない。大胆で骨太で力強い表現のこの半裸像は、ゴッホ、マチスを研究した上で、絵画としての造形的要素を追求した裸婦である。萬鉄五郎は『吾々は、自然を模倣する必要はない。自分の自然を表現せよ』と言っている。萬の個性がいつきに開花し、日本近代絵画の幕開けを告げる作品となった。

萬鉄五郎記念美術館 中村光紀



右/プラクシテレス《クニドスのアフロディテ》(ローマンコピー) 原作は前350-340年頃 ヴァチカン博物館
左/ルカス・クラナハ(父)《ヴィーナス》1532年 シュテデル美術館

萬鉄五郎記念美術館 岩手県花巻市東和町土沢5-135 Tel.0198-42-4402 8:30am.~5:00pm.

yorozu00@cocoa.ocn.ne.jp <http://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/501/yorozutetsugoro/p004177.html> 月曜休館(祝日の場合その翌日)

発行人/東和町土沢商店街商店会連絡会会長小原茂明